

日本ロボット学会学会誌

今後の課題

立命館大学
川村貞夫

今までの経緯

学会誌

- 専門家集団が，お互いに当該学会の基準で査読し，論文レベルを維持，向上するシステム

- 学会誌が以下の結果に大きく影響する。

(A) 博士論文審査

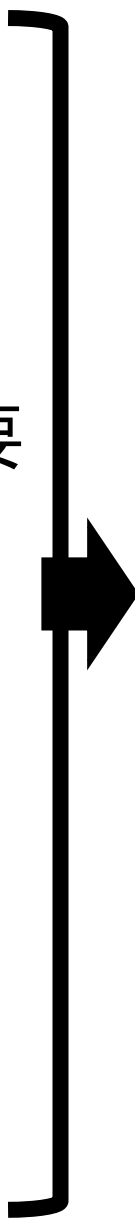
(B) アカデミアの昇進

(C) 研究費獲得



- 社会が動く方向決定に大きな影響を与える。

- ・投稿数が減少
グローバル化により国際誌志向
- ・企業会員数が減少
産業界から興味ある内容かの検証必要
- ・掲載費用が学会財政に重要
AR無料 他の国際誌も無料
- ・論文内容に偏り
教育, システム化, 実証等が評価困難



2011年度から
理事会で
議論開始

2013年度で
一定の結論

従来分野

- ・要素
解析的内容

新分野

- ・システム設計・構築
システム化の科学と技術
- ・人材育成-社会分野
教育手法 社会との関わり
- ・社会実証実験
フィールド実証 実環境下実証

新しい価値基準で厳正に査読を行う。

(1) システム設計・構築

分析科学ではない設計科学としてのロボティクス推進
産業界視点で有用な情報提供

➡ 企業の会員数増

(2) 人材育成-社会分野

ロボット教育の企画, 立案, 解析等の発表の場
教育界視点での有用な情報提供

➡ 小中高教員, 他分野の会員数増

(3) 社会実証実験

ノウハウ等の実利用に有用な情報の集積
学術界, 産業界, 教育界視点での有用な情報提供

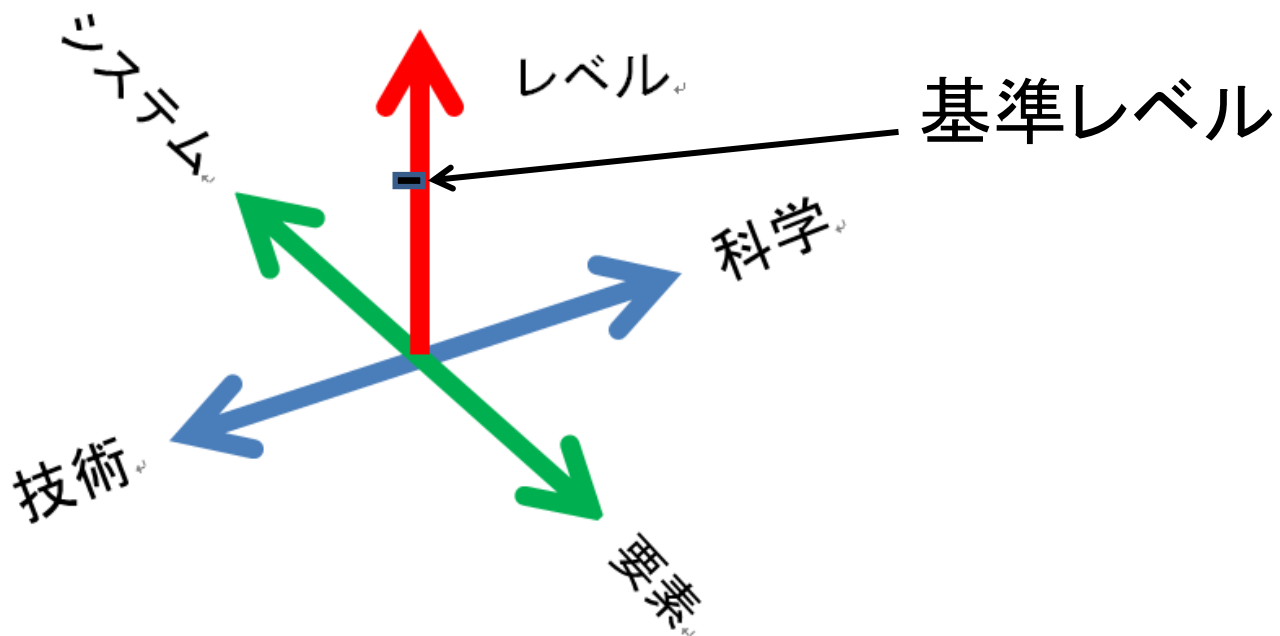
➡ 研究機関, 企業, 教育関係者の会員数増

今後の学会誌の論点

科学・技術・要素・システムの関係

査読基準

水平面上の少なくとも1点で、レベルが基準レベルを満足すれば採録



システムの論文を多く採択できるか？

産業にとって有用な情報

- 企業人にとって有用な情報
- 学会だから可能な情報
- 世界の研究動向情報
- 産学連携を支援
- 新しい技術開発の萌芽

産業界にとって、有用な情報誌となっているか？
企業訪問 学生の企業インタビュー などの
リクルートの活動も重要

学会誌に教育分野設立

- ・教育手法開発 教育効果検証法 教育実践紹介
- ・幼稚園から大学院までの教育を対象
- ・担当教諭もロボット学会員になることのメリットづくり
- ・教育実践現場での手法等の検証

ロボット教育

- ・システム統合化 たくさんのことを学習する必要がある。良い教育手法が必要
- ・工学のエッセンスを持っている。

教育論文は一定数で投稿されている

- ・各論文の位置づけの整理が必要
- ・教育の解説論文などが必要

そのためのシンポジウムも重要

和文(ロボット学会誌)と英文(AR)

学術業績: 国際誌への論文投稿が必要

[1] Advanced Robotics

- 国際誌として, IFを高める.
- 先端科学・技術の世界情報発信の役割

[2] 日本ロボット学会誌

- ロボット産業基盤となる有用な情報の国内充実・蓄積 (日本には, 有用な情報がある.)
- 解説, 技術紹介, 教育論文
- 言語の多様性, 発想の多様性のために必要

改革妥当性の検証

2014年度から査読分野を拡充

2016年度～2017年度

総括が必要

おわりに

1983年学会設立時から

状況は大きく変化

学会誌に

新しい企画を

積極的に実現してください。

よろしく願いします。